回復期リハビリテーション病棟における FIM 社会的認知の経時的変化と改善要因の検討

○後藤貴浩

(仙台市障害者総合支援センター)

キーワード: 回復期リハビリテーション病棟, Functional Independence Measure (FIM), 社会的認知

The examination of Variation of FIM social cognition and an improvement factor in a recovery rehabilitation ward.

Takahiro Goto

(Sendai handicapped people general support center)

Key words: Recovery rehabilitation ward, Functional Independence Measure (FIM), Social cognition

【目 的】

脳損傷後の後遺症では、麻痺などの神経学的障害だけでなく一連の高次脳機能障害も大きな問題となる。リハビリテーション医療領域ではこういった高次脳機能障害によって阻害された認知的活動を機能的自立度評価法 (Functional Independence Measure; FIM) の FIM Cognition (FIMC) という 5 項目 (理解, 表出, 社会的交流, 問題解決, 記憶) で評価している。中でも社会的交流, 問題解決, 記憶の 3 項目は「社会的認知」項目と呼ばれる。過去, この項目の臨床的意義に関してはいくつかの知見もみられ (水尻他, 2005, 及川他, 2006, 戸島他, 2001), 臨床上の重要性も示唆されているものの, この項目が回復期においてどのような経時的変化をたどるのか, 変化 (改善) するとすればどういった要因が関与するのかといったことは検討されていない。そこで, 本研究では, 脳卒中回復期における (1) FIM 社会的認知の経時的変化を調査すること, そして (2) その改善要因を検討することを目的とし, 後方視的に調査し, 比較検討した。

【方 法】

2006 年 10 月から 2008 年 8 月までに A 病院回復期リハビリテーション病棟に入院した脳血管疾患を呈した患者を対象とした。A 病院では入院から約 1 週間後に各担当専門職によって初回カンファレンス (初回 C) が行われ, 以後約 1 ヶ月毎にカンファレンスが開催される。その際, 看護師らが FIM による ADL 評価を行っている。その初回 C において FIM 社会的認知の 3 項目が全て 6 点未満の者, つまり介助者の協力が必要であった患者 102 名を抽出した。

経時的変化調査の手続きとしては, まず 102 名のうち, 3 ヶ月以上入院した患者 47 名を抽出し, FIM 社会的認知に有意な変化がみられるのかを Friedman 検定を用い, 解析を行った。更に 1 ヶ月毎の平均利得を算出し, 利得の変化について検討した。また項目毎に利得値の患者数内訳算出や改善期 (1 点以上の変化がみられた時期の便宜の名称) の項目毎の患者数内訳算出を行い, 傾向を検討した。

改善に影響する要因検討の手続きとしては, 102 名を改善群 (退院までに 1 点以上の変化があった者) と非改善群 (全く変化がなかったか逆に減点となってしまった者) に群分け

し, 各臨床の変数を比較した。変数としては, 年齢, 性別, 疾患名, 病巣, 罹病期間, 入院期間, 初回 C 時の FIM 各項目, 同じく初回 C 時の Mini Mental State Examination (MMSE), レーヴン色彩マトリックス検査 (RCPM) を用いた。分析は, 年齢, 罹病期間, 入院期間は一元配置分散分析を, FIM 各項目と神経心理学的検査は Mann-Whitney の U 検定を, 性別, 疾患, 病巣は χ^2 検定を用いた。

【結 果】

経時的変化については, 社会的認知が各項目とも入院中に有意に改善し, かつ入院直後の 1 ヶ月が最も利得が高いことが示唆された。更に改善期は, 社会的交流や記憶では 1 ヶ月目に改善を示す患者が 7~8 割であったのに対し, 問題解決では 2 ヶ月目以降に改善を示す患者が 5 割を占めることが示唆された。

改善要因については, 改善群・非改善群の 2 群間比較では社会的交流は全ての変数で有意差がなく, 問題解決は年齢等や入院期間で有意差が, 記憶は年齢や神経心理学的検査成績などで有意差がみられた。

【考 察】

考察として, FIM 社会的認知項目は回復期においても経時的に変化しているものの, 細項目ごとに改善期には特徴があること, そしてその細項目ごとの改善要因として, 社会的交流は心理社会的要因の関与が, 問題解決は訓練量や訓練期間が関与していることが示唆され, また記憶は改善要因が患者内要因に限定されており, 操作可能変数が少ない分, 早期から代償的治療を検討すべきであることが示唆された。

【引用文献】

水尻強志, 他 2005 リハビリテーション病棟において転倒を繰り返す患者の特徴。リハビリテーション医学, 42, 80
及川忠人, 他 2006 FIM 社会的認知と服薬管理機能等との関連について。リハビリテーション医学, 43, 392
戸島雅彦, 他 2001 脳梗塞急性期入院例の入院期間と退院先に影響する因子。リハビリテーション医学, 38, 268 - 276

(Takahiro Goto)